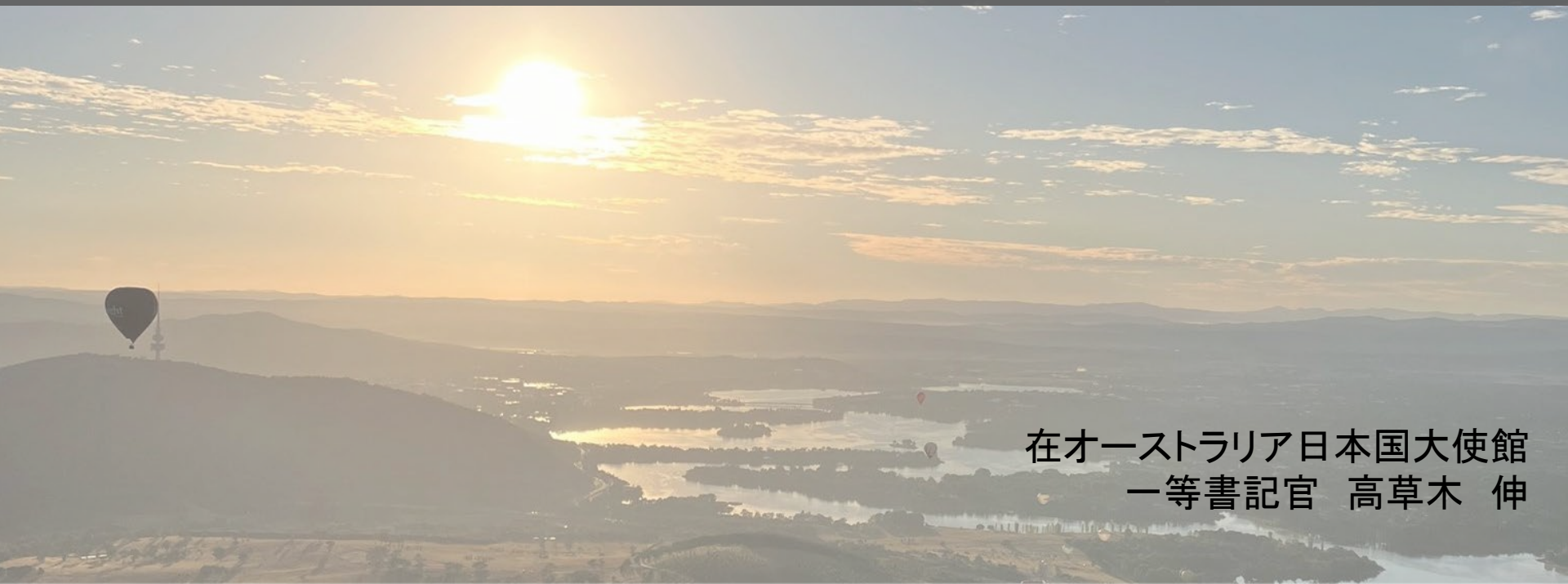
2026年10月30日
アジア・太平洋総合研究センター
第59回アジア・太平洋研究会

豪州との研究協力の新地平

― 研究規模を超えたインパクトと相互補完性



在オーストラリア日本国大使館
一等書記官　高草木　伸

本日お話しすること（概要）

- 研究規模を超えたインパクト
  - 人口規模の小さい豪州が持つ研究力の優位性

- 相互補完性
  - 日本との構造的な補完関係
  - 具体的な日豪協力事例

豪州を日本の科学関係者にとって身近な
“隣の大陸”として再定義したい。

アジェンダ

①豪州の情勢概観

②豪州の持つ強みと課題

③日豪の協力の枠組とポテンシャル

④日豪の相互補完性

⑤今後の日豪連携に向けた提言

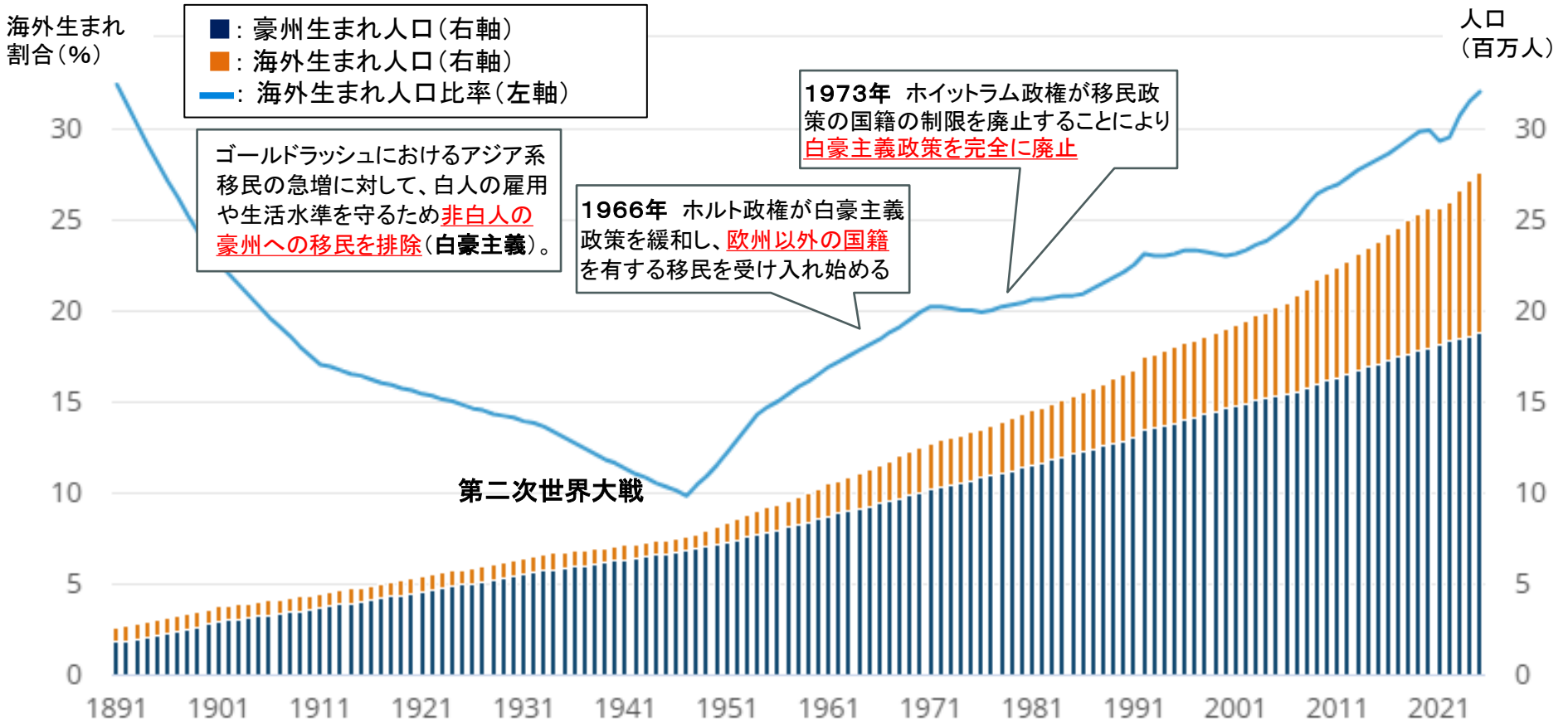
① 豪州の情勢概観： 拡大する人口

- 拡大する人口：現在2700万人。2065年の人口予測は4100万人（同年の日本の人口予測は9160万人）。2010–19年の平均人口増加率1.50%は先進国で屈指の高さ。

- 豪の一人当たりGDP（6.6万米ドル）は日本（3.3万米ドル）の約2倍。40年後は日豪の市場規模が同水準になる可能性。

① 豪州の情勢概観： 拡大する人口

- 白豪主義の廃止等の政策変化を経て、継続的に移民を受入れ。
- 近年も移民増加が続き、**2025年時点で約32%が豪州以外の出生**。

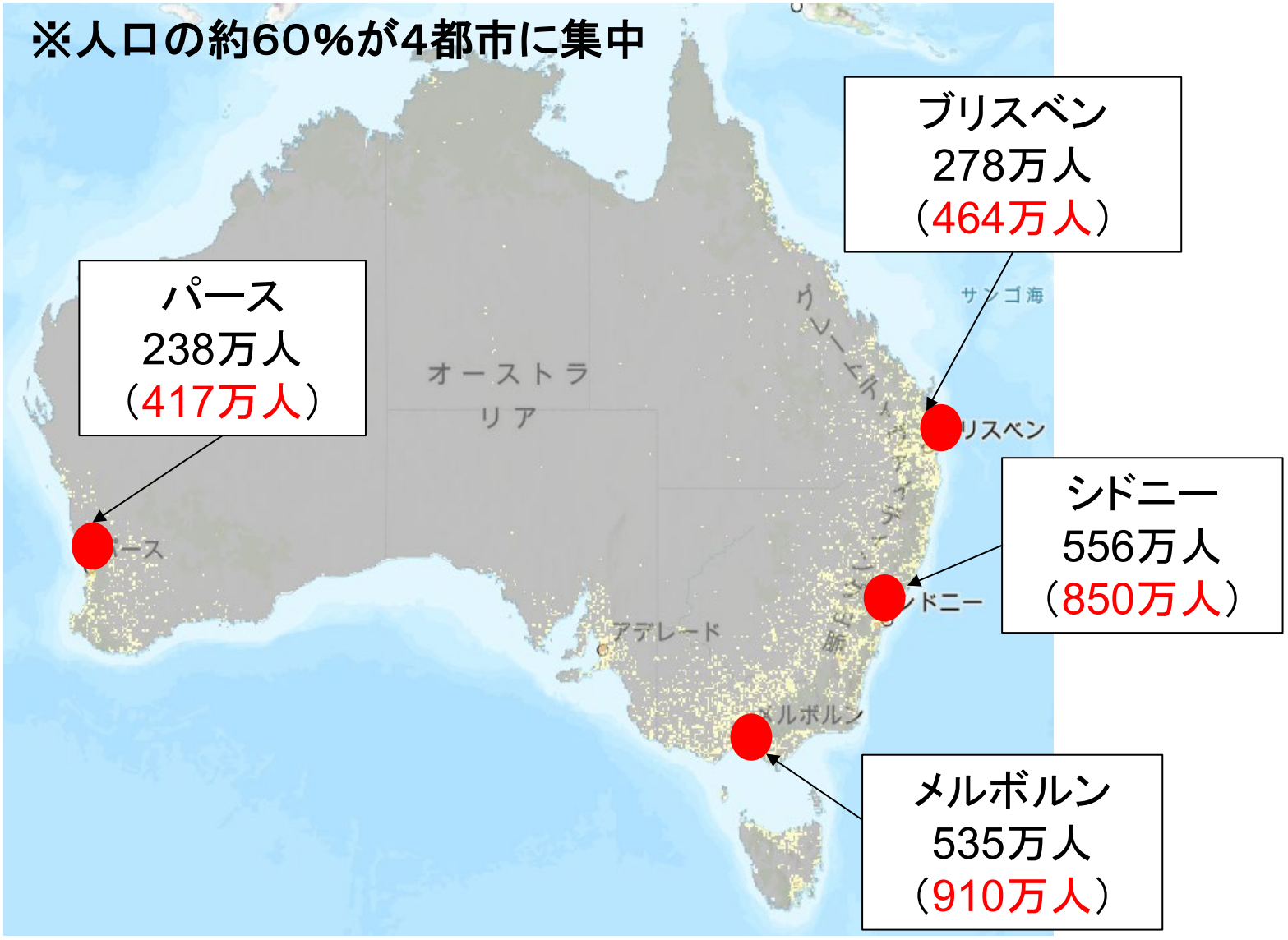


グラフ：豪連邦統計局（ABS）掲載資料を引用
https://www.abs.gov.au/statistics/people/population/australias-population-country-birth/jun-202

a. Prior to 1992 based on Census counts. Data for 1992 to 2025 uses estimated resident population.
b. Population estimates for 2025 are preliminary. See Revision status in the methodology page.

① 豪州の情勢概観： 拡大する人口

豪州の人口分布（2024年）
(各都市の人口は2025年。括弧内は2065年予測)



① 豪州の情勢概観： 人口増・人口構成変化によるビジネスチャンス

- 不動産：日本の2023～2024年の2年間の対豪投資額は、2001～2022年の累計額を上回る。
- 住宅建築：深刻な住宅供給不足。日本型プレハブ建築導入の可能性（既に日系大手6社が進出）。
- 鉄道：高速鉄道（2026年2月24日より開発フェーズ開始、投資決定は2年後）、メトロ鉄道等。
- 流通・食品・飲料：多くの日本企業が参入・拡大。ビールトップ10銘柄中9銘柄はアサヒとキリン傘下。サントリーも4億ドル以上を投資しQLDで新工場を稼働。
- 医療・健康・介護：男性平均寿命は既に日本を超えており、長寿化対応は社会課題である一方で、手厚い社会保障制度が存在。

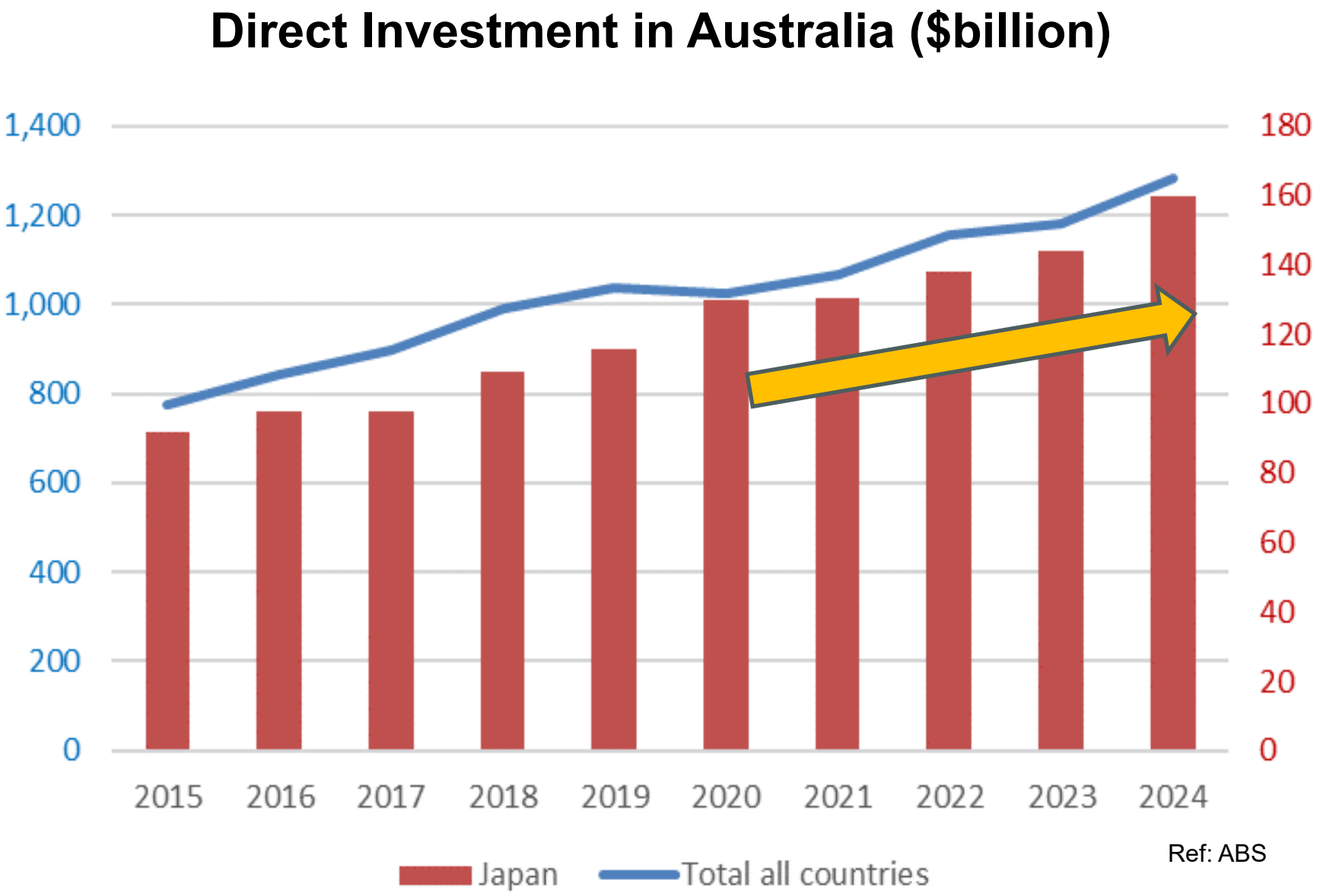
① 豪州の情勢概観： 日本からの対豪州投資

- 日本企業(三菱商事、三井物産、INPEX等)は豪州の雇用創出と政府歳入に大きく貢献 (日本は石炭の70%、鉄鉱石の60%、LNGの40%を豪州に依存)
- 日本の対豪直接投資残高は米国に次いで2位、M&Aは2024年に過去最高を記録。

Tax-paying companies in Australia in 2022/23
(TOP 10 and major Japanese tax-paying companies)

#	COMPANY NAME
1	RIO TINTO
2	BHP GROUP
3	GLENCORE INVESTMENT
4	CHEVRON AUSTRALIA HOLDINGS
5	FORTESCUE
6	CBA
7	WOODSIDE ENERGY GROUP
8	WESTPAC
9	NATIONAL AUSTRALIA BANK
10	MITSUBISHI DEVELOPMENT
17	MITSUI & CO
25	JAPAN AUSTRALIA LNG (MIMI)
28	IDEMITSU
29	ITOCHU
38	NIPPON STEEL
43	J-POWER
45	ASAHI HOLDINGS
58	MARUBENI
61	SOJITZ
64	MITSUI-ITOCHU IRON
95	SMBC
96	SEVEN GROUP HOLDINGS

① 豪州の情勢概観： 日本からの対豪州投資



Ref: ABS

① 豪州の情勢概観： 資源国からの転換

- **産業政策の転換期**
  - ネット・ゼロ社会をにらみ、従来の資源採掘・輸出型から、高付加価値財輸出型への転換を志向
  - 再エネ、グリーンメタル（鉄・アルミ）、重要鉱物（リチウム、ニッケル等）精錬等を内容とする国内産業支援
  - 「生産性向上」が目下の政治課題、AI、量子、ロボット技術開発の促進

- **政府の国内産業支援**
  - 「Future Made in Australia」（2024-25予算で227億豪ドルの国内産業支援、クリーンエネルギー・イノベーション）
  - 「国家再興基金」（再生可能・低排出技術、医療科学、運輸、農林水産業の付加価値向上、資源の付加価値、防衛能力、重要技術・先端製造能力構築の7つの優先分野へ150億豪ドルの投資促進）

① 豪州の情勢概観： 豪州政府の科学技術推進体制

首相・内閣省 (Department of PM&C)



総理大臣
Anthony Albanese
アンソニー・アルバニージー (2022年5月-)



豪州首席科学顧問
Tony Haymet
トニー・ヘイメット (2025年1月-、海洋学者)

産業・科学・資源省 (DISR)

- 首席科学顧問室 (OSC)
- 豪州連邦科学産業研究機構 (CSIRO)



産業イノベーション大臣兼科学大臣
Tim Ayres
ティム・エアーズ (2025年5月-)

教育省 (DE)

- 豪州研究会議 (ARC)
- 大学 (8大学など)

豪州科学アカデミー (AAS)



教育大臣
Jason Clare
ジェイソン・クレア (2022年6月-)

科学技術振興機構アジア・太平洋総合研究センターAPRCより提供
Copyright © Japan Science and Technology Agency

このほか、
・Universities Australia（UA、豪州大学協会）
・Innovative Research Universities（IRU、研究大学連合）
・Australian Academy of Technological Sciences and Engineering（ATSE、豪州技術科学・工学アカデミー）
などのプレイヤーも。

②－１　豪州の持つ強み：　地政学的な強み

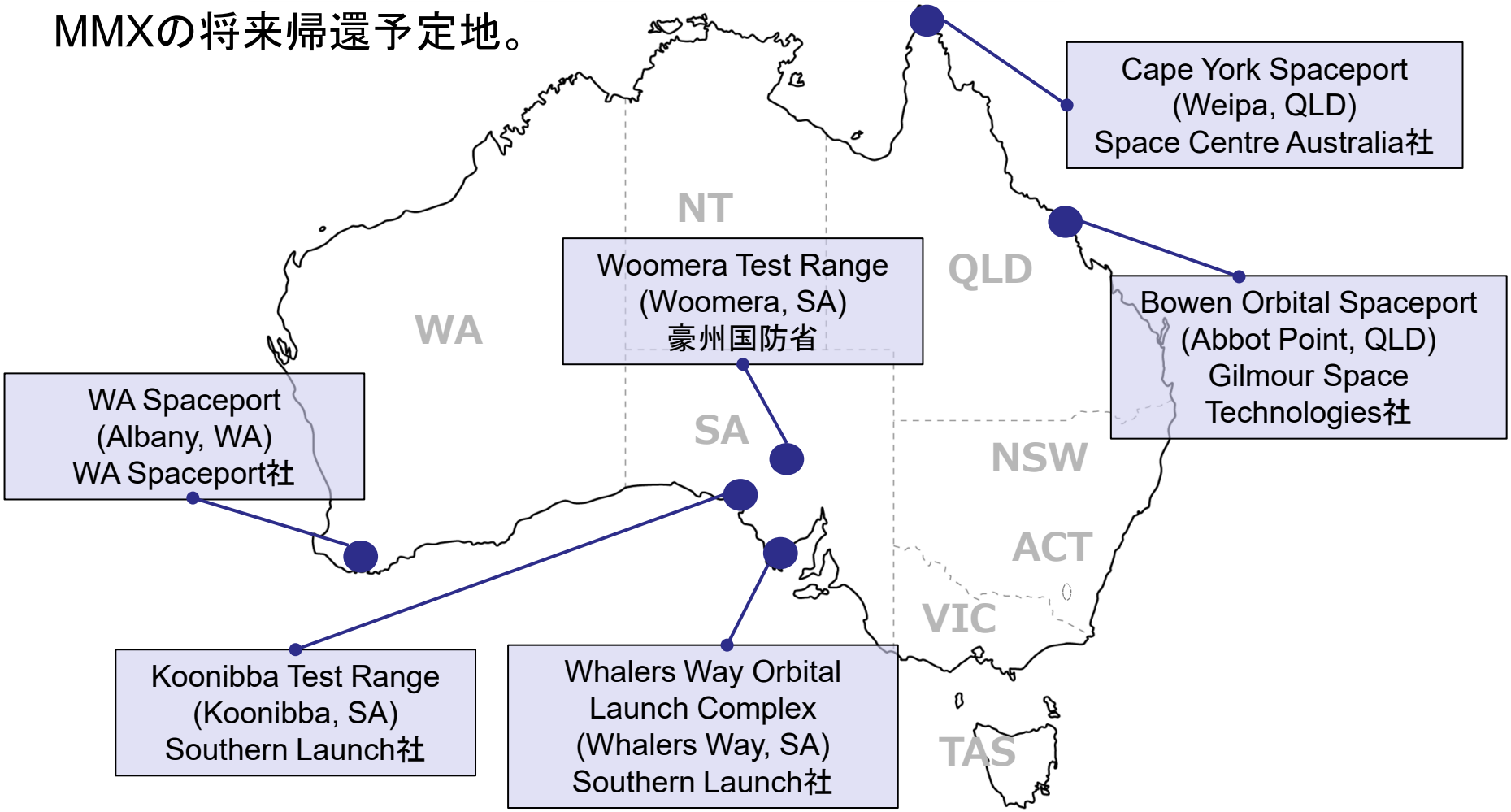


②－１　豪州の持つ強み：　地政学的な強み

- インド太平洋の要衝：インド洋と太平洋の接点に位置
- 同盟ネットワーク：米国とのANZUS同盟を基盤に、AUKUS・Five Eyes・Quadに参加。抑止力、先端技術へのアクセス
- オセアニアの島国：直接的な陸上侵攻リスクが低い。インド太平洋に全ODA予算の3/4を割り振り、島嶼国に強く関与（安保協力を含む協定締結、警察協力、開発協力等）
- 南半球：衛星通信・天文等において北半球の先進諸国と連携した独自の役割。
- 豊富な資源：鉄鉱石、石炭、天然ガス等のエネルギー資源や重要鉱物が豊富。地政学的緊張下でも供給者としての価値。

②－1　豪州の持つ強み：　広大な国土

- 低人口密度の広大な国土、沿岸から開けた海洋を活かし、ロケット射場を複数整備。（現在稼働中はWoomera、Koonibba、Bowen Orbitalのみ）
- Woomeraは西側諸国最大の陸上試験場として軍事・研究に使用。JAXA小惑星探査機「はやぶさ」シリーズのカプセル着陸地、2026年10月打ち上げのMMXの将来帰還予定地。



②－１　豪州の持つ強み：　広大な国土

- **SKA-Low**　（西オーストラリア州マーチソン）
  建設中の世界最大級の低周波電波望遠鏡。約13万基のアンテナで、宇宙が生まれて間もない頃の様子や銀河の成長の過程などを調べる。豪州がホストし、2028–29年頃完成予定。

- **Parkes Observatory**　（NSW州パークス近郊）
  CSIROの直径64mの大きな単一鏡。南半球最大級の単一鏡で、高速で回転する中性子星（パルサー）や、宇宙から突然届く強い電波の信号（高速電波バースト）などの観測で長年成果を出している。SKAの技術や観測方法を事前に試す役割も果たしている。

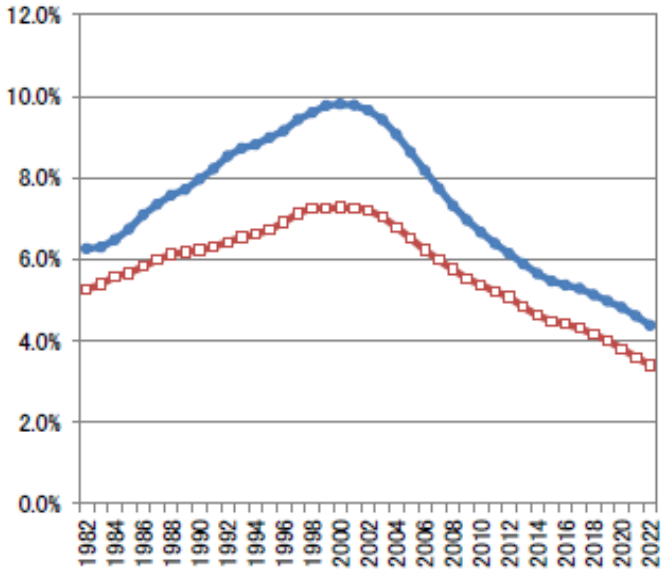
- **Siding Spring Observatory**　（NSW州クーナバラブラン近郊）
  ANUの光学・赤外天文台。暗い夜空を活かし、オーストラリア最大級の光学望遠鏡（直径3.9mのアングロ・オーストラリア望遠鏡）など、多数の望遠鏡を運用している。

- **Mount Stromlo Observatory**　（キャンベラ）
  ANUの天文研究本部。併設の量子光学地上局では2026年にNASAの有人月周回ミッション（Artemis II）との通信実証も実施。日本のすばる望遠鏡向けに、地上層補償光学（GLAO）システムの一部（レーザーガイド星生成装置など）を共同開発。

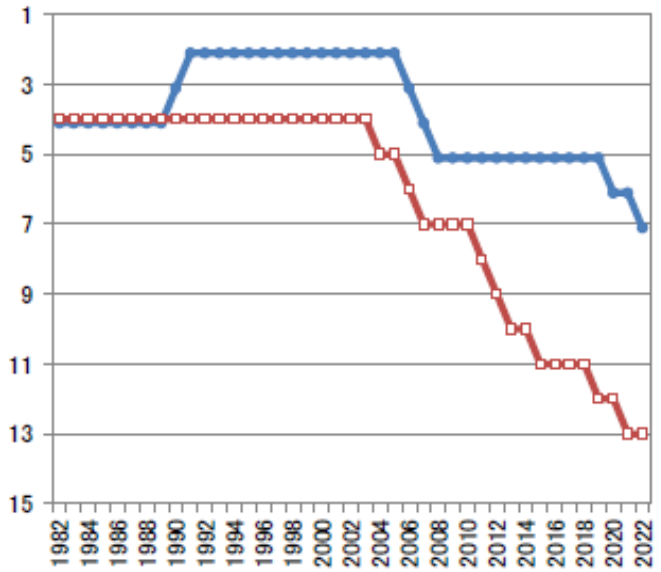
②－1　豪州の持つ強み：　研究力

日本

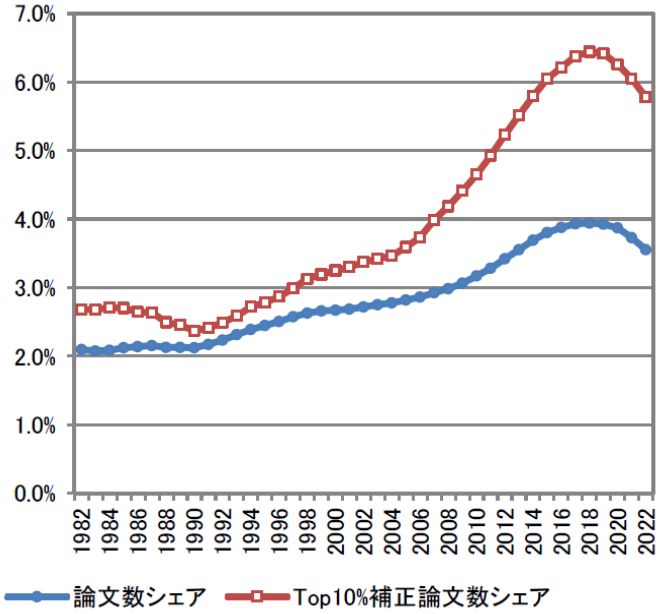
論文世界シェア（3年移動平均、%）

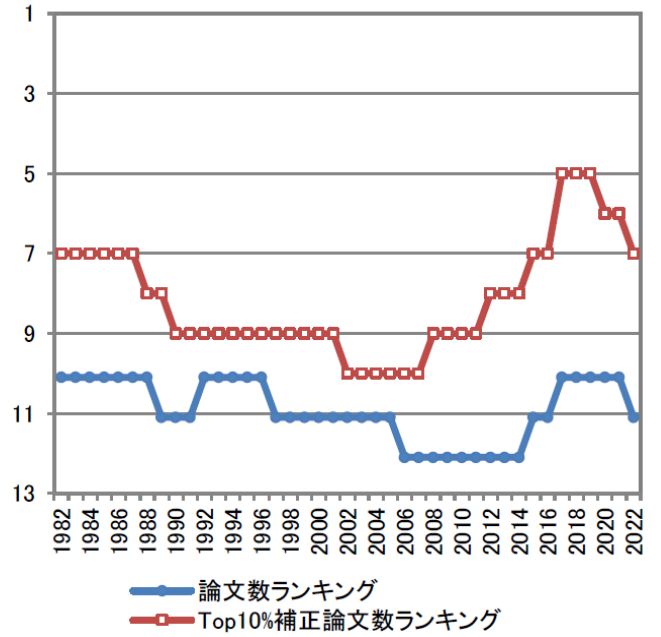


論文世界ランキング（3年移動平均）



オーストラリア



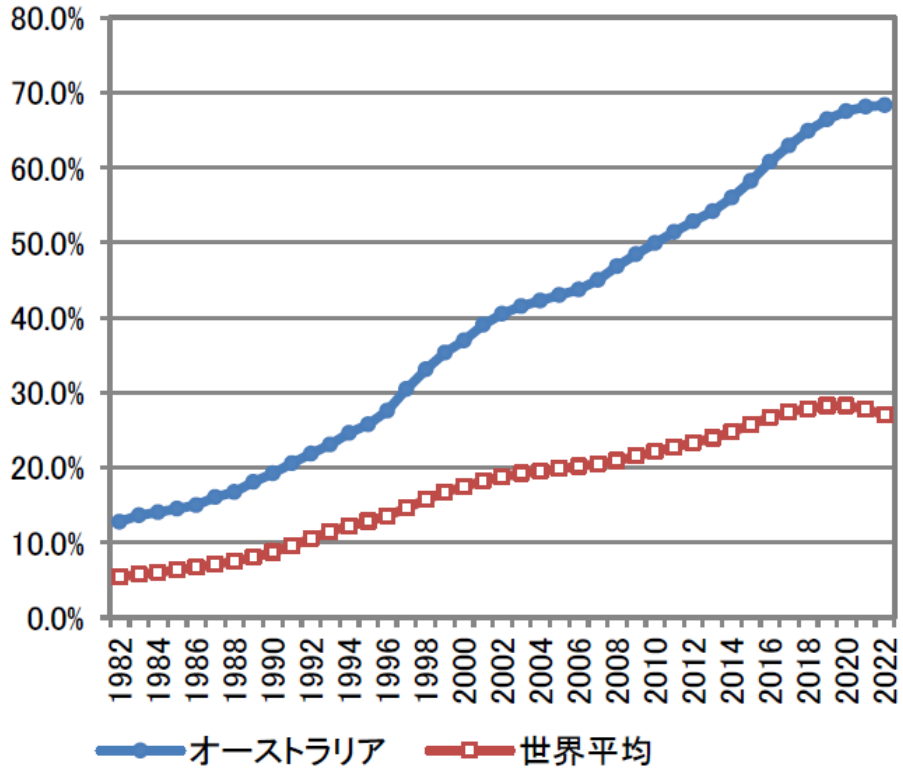


出典：NISTEP「科学研究のベンチマーキング2025」

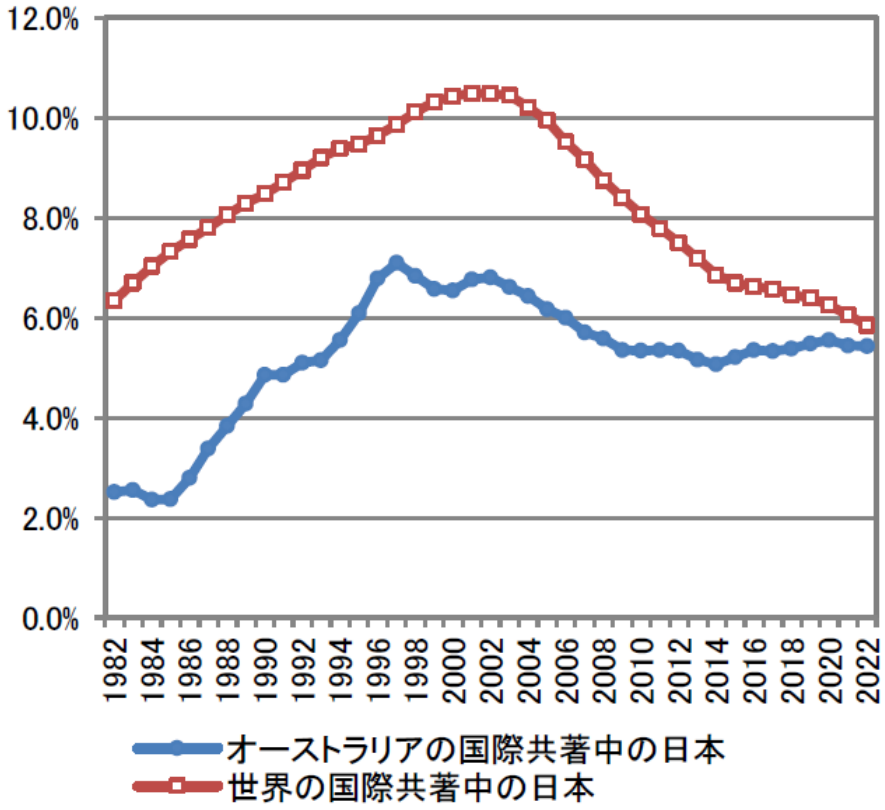
②－１　豪州の持つ強み：　研究力

・オーストラリアの国際共著論文の状況

国際共著論文の比率（3年移動平均、%）



国際共著中の日本比率（3年移動平均、%）



出典：NISTEP「科学研究のベンチマーキング2025」

②－1　豪州の持つ強み：　研究力

- QS世界大学ランキングではトップ100位に9大学(Group of Eight + UTS)がランクイン。

大学名	QS2027	THE2027
NSW大学	19位	75位
メルボルン大学	22位	34位
シドニー大学	28位	51位
豪州国立大学(ANU)	29位	77位
モナシュ大学	31位	61位
クイーンズランド大学	40位	73位
西オーストラリア大学	77位	173位
アデレード大学	79位	141位
シドニー工科大学(UTS)	87位	152位

大学名	QS2027	THE2027
東京大学	39位	27位
京都大学	64位	62位
大阪大学	95位	147位
東京科学大学	97位	185位

②－1　豪州の持つ強み：　研究力

- ユニコーン企業数（未上場で評価額$1B以上）　2026年3月現在

日本
（6社）

企業名	評価額($B)	加入日	都市	業種
Sakana AI	2.64	2024/06/26	Tokyo	Enterprise Tech
Preferred Networks	2.00	2018/05/17	Tokyo	Industrials
SmartNews	2.00	2019/08/05	Tokyo	Media & Entertainment
SmartHR	1.60	2021/06/08	Tokyo	Enterprise Tech
CADDi	1.20	2026/09/15	Tokyo	Industrials
Spiber	1.22	2021/09/08	Tsuruoka	Industrials

オーストラリア
（9社）

Canva	32.00	2018/01/08	Surry Hills	Enterprise Tech
firmus	10.50	2025/06/25	St Leonards	Enterprise Tech
Immutable	2.50	2022/03/07	Sydney	Media & Entertainment
GO1	2.00	2021/07/19	Brisbane	Enterprise Tech
SafetyCulture	1.67	2021/05/03	Sydney	Industrials
Employment Hero	1.37	2023/10/18	Sydney	Enterprise Tech
Culture Amp	1.50	2021/07/29	Richmond	Enterprise Tech
LinkTree	1.30	2022/03/16	Melbourne	Media & Entertainment
Pet Circle	1.00	2021/12/06	Sydney	Consumer & Retail

出典：CB Insights「The Complete List of Unicorn Companies」（2026年3月時点）

● 小話1

- 豪州は、子供達の基礎学力に課題があるにもかかわらず、なぜ高い研究力を誇るのか。
  - 中国・インド等世界中から集まる研究者の力？
  - 失敗を許容しポジティブに受け止める精神性？
  - 幼少期からの自分の意見を話す訓練？

②－2　豪州の持つ課題：　研究成果の実用化・商用化

- 世界有数の資源輸出国である一方、国内の製造分野の強化が課題

2025

Australia's top 25 goods & services exports (a) (g)

Rank		2024	2025	% share of total	% growth 2024 to 2025
1	Iron ore & concentrates	124,549	120,830	18.1	-3.0
2	Coal	85,154	64,172	9.6	-24.6
3	Natural gas	67,441	60,173	9.0	-10.8
4	Gold	35,703	59,555	8.9	66.8
5	Education-related travel (d)	51,895	54,998	8.3	6.0
6	Personal travel (excl education-related)	22,272	25,584	3.8	14.9
7	Prof., technical and other business services	16,167	19,326	2.9	19.5
8	Beef, f.c.f.	14,039	18,717	2.8	33.3
9	Aluminium ores & conc (incl alumina)	12,932	13,180	2.0	1.9
10	Intellectual property charges nie	9,575	11,274	1.7	17.7
11	Wheat	8,435	9,881	1.5	17.1
12	Crude petroleum	10,649	9,142	1.4	-14.2
13	Transport services (f)	8,160	8,700	1.3	6.6
14	Meat (excl beef), f.c.f.	7,098	8,268	1.2	16.5
15	Copper ores & concentrates	6,586	7,333	1.1	11.4
16	Copper	5,554	6,229	0.9	12.2
17	Aluminium	5,721	6,202	0.9	8.4
18	Financial services	5,261	5,577	0.8	6.0
19	Business-related travel	4,599	5,436	0.8	18.2
20	Other ores & concentrates (e)	4,237	5,373	0.8	26.8
21	Refined petroleum	5,023	4,982	0.7	-0.8
22	Precious metal ores & conc (excl gold)	2,494	4,881	0.7	95.7
23	Telecom. computer & information services	3,819	4,805	0.7	25.8
24	Crude minerals, nes	4,885	4,763	0.7	-2.5
25	Oil-seeds & oleaginous fruits, soft	5,002	4,611	0.7	-7.8
	Total all goods & services exports (b)	**645,878**	**665,743**	**100.0**	**3.1**

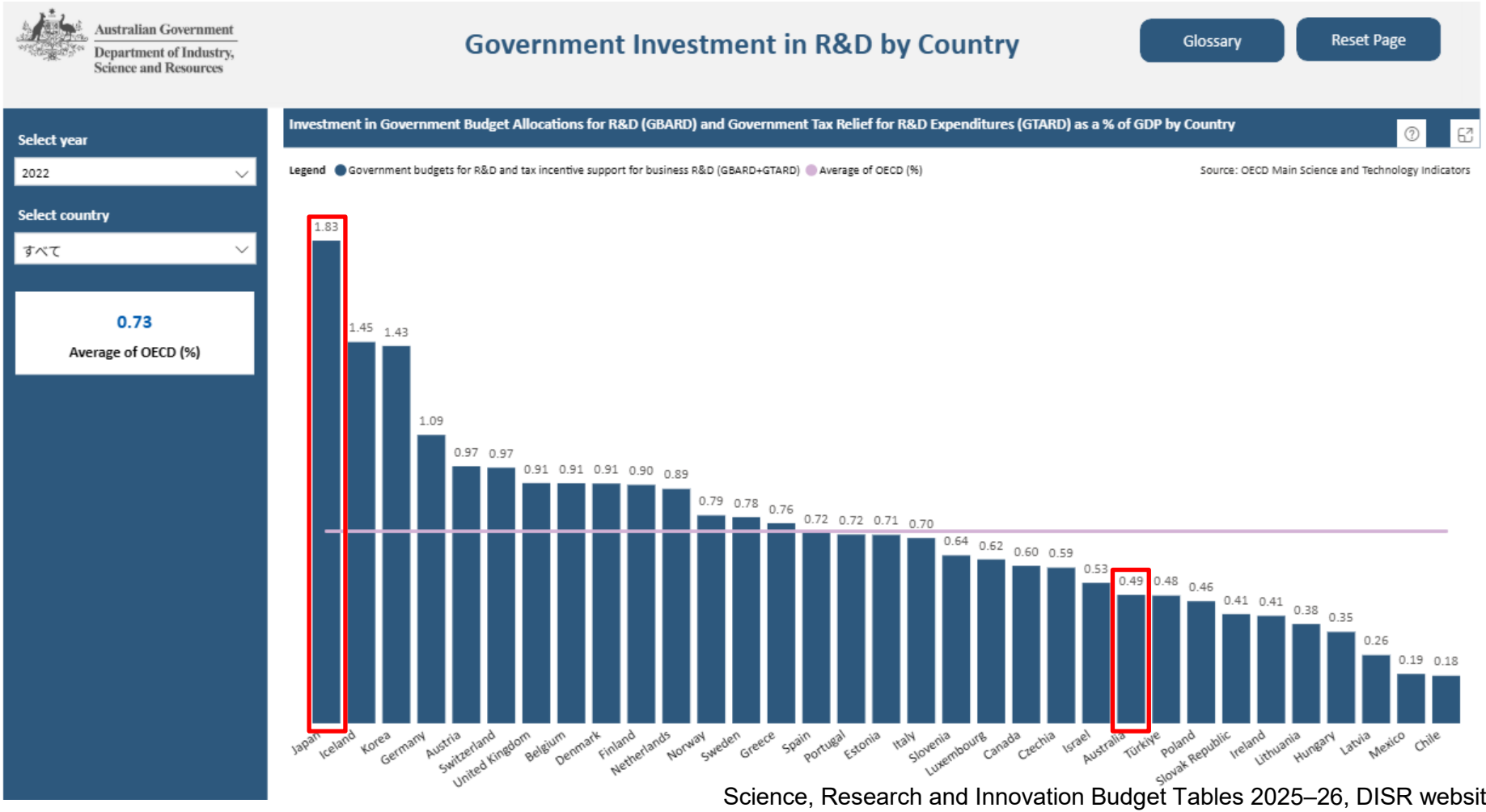
Australia's top 25 goods & services imports (a) (c) (g)

Rank		2024	2025	% share of total	% growth 2024 to 2025
1	Personal travel (excl education-related)	63,789	68,533	10.4	7.4
2	Refined petroleum	47,336	43,776	6.6	-7.5
3	Passenger motor vehicles	35,758	34,466	5.2	-3.6
4	Prof., technical and other business services	29,951	32,973	5.0	10.1
5	Transport services (f)	28,243	29,030	4.4	2.8
6	Gold	9,878	20,617	3.1	108.7
7	Intellectual property charges nie	16,393	19,187	2.9	17.0
8	Telecom equipment & parts	17,075	18,695	2.8	9.5
9	Computers	12,646	16,550	2.5	30.9
10	Goods vehicles	16,797	15,782	2.4	-6.0
11	Electrical machinery & parts, nes	9,956	12,624	1.9	26.8
12	Medicaments (incl veterinary)	9,082	10,722	1.6	18.1
13	Telecom. computer & information services	7,458	8,106	1.2	8.7
14	Personal, cultural & recreational services	6,954	8,003	1.2	15.1
15	Pharm products (excl medicaments)	7,932	7,769	1.2	-2.1
16	Crude petroleum	7,749	7,416	1.1	-4.3
17	Civil engineering equipment & parts	7,077	6,749	1.0	-4.6
18	Furniture, mattresses & cushions	5,993	6,345	1.0	5.9
19	Prams, toys, games & sporting goods	4,881	5,626	0.9	15.3
20	Household-type equipment, nes	5,288	5,500	0.8	4.0
21	Heating & cooling equipment & parts	5,989	5,493	0.8	-8.3
22	Business-related travel	5,315	5,239	0.8	-1.4
23	Plastic articles, nes	5,113	5,224	0.8	2.2
24	Measuring & analysing instruments	4,953	5,173	0.8	4.4
25	Fertilisers (excl crude)	4,653	5,104	0.8	9.7
	Total all goods & services imports (b)	**615,721**	**658,348**	**100.0**	**6.9**

出典：DFAT, Australia's top goods and services trade 2025

②－2　豪州の持つ課題：　研究成果の実用化・商用化

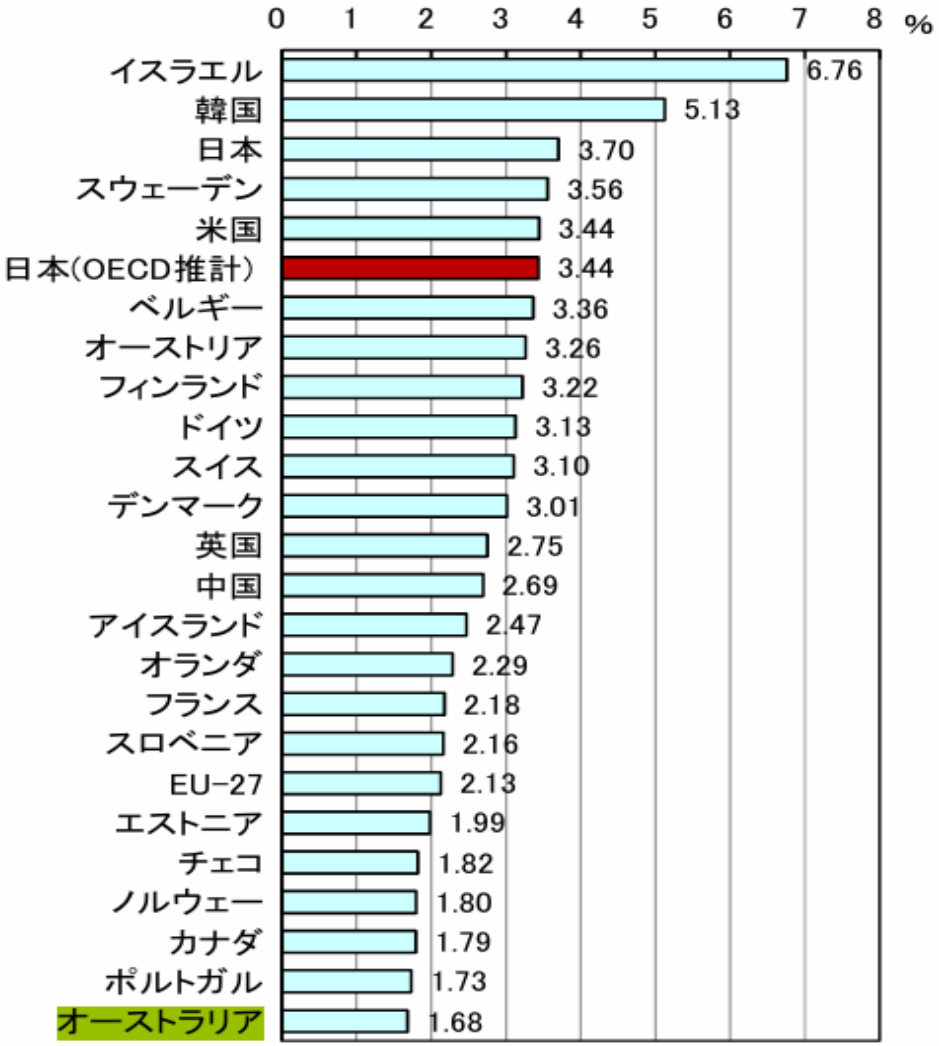
- 研究開発投資の少なさ
  - 豪州政府 R&D投資額GDP比 0.49%　< OECD平均　0.73%
    (2022年)



Science, Research and Innovation Budget Tables 2025–26, DISR website

②－2　豪州の持つ課題：　研究成果の実用化・商用化

- 研究開発投資の少なさ
  - 各国・地域の研究開発費総額（民間部門も含む）の対GDP比（2024）



出典：NISTEP「科学技術指標2026」

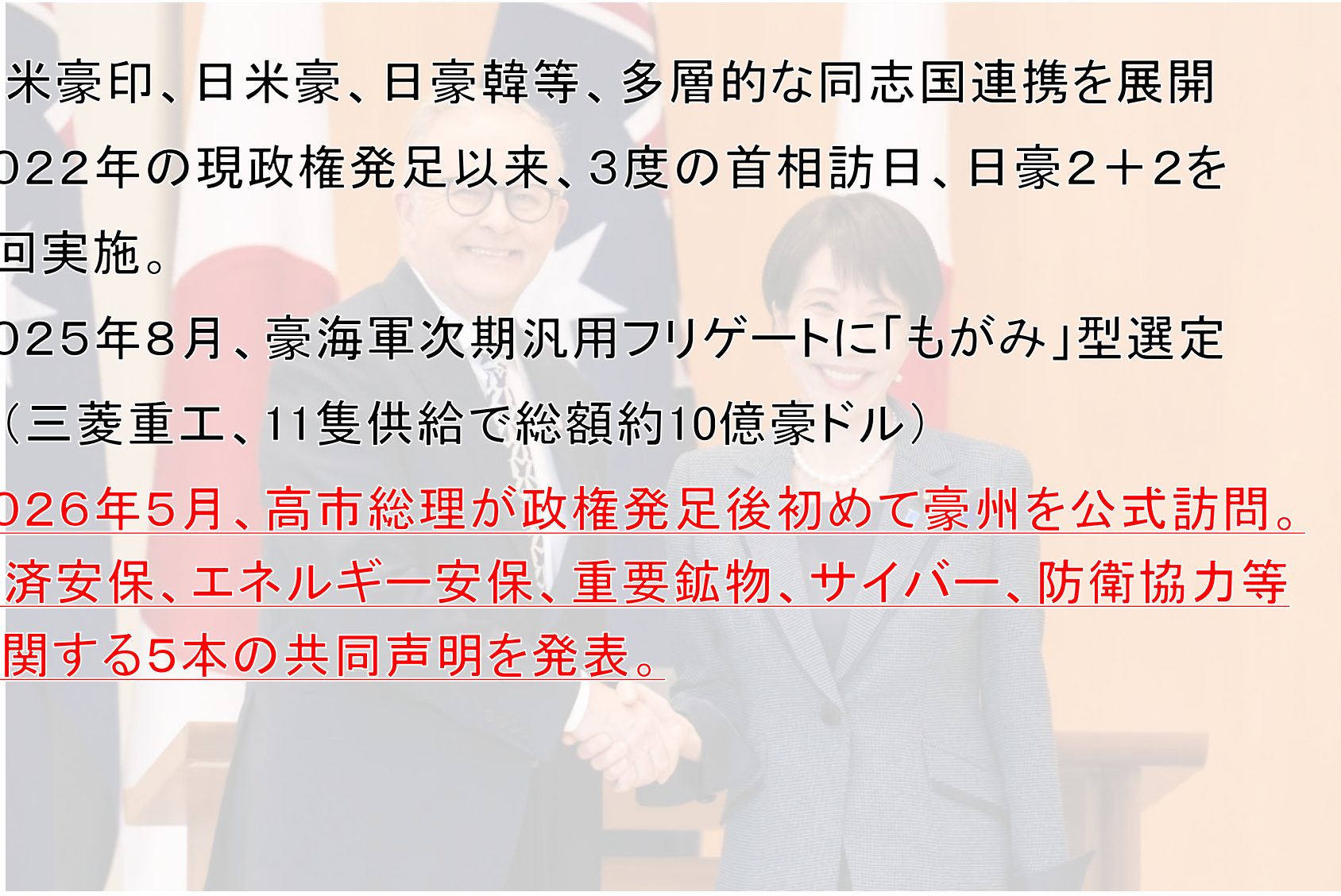
②－２　豪州の持つ課題：　研究成果の実用化・商用化

- **研究開発成果のアウトプットへの接続**
  - Global Innovation Index 2026
  - 各国のイノベーション創出のためのインプット（人的資本、民間投資、政府支援、科学技術基盤の整備状況等）、アウトプット（特許、技術革新、創造性、社会的影響等）に分類された約80の指標から多面的に評価し、スコア・順位付けをしたもの

	総合順位	インプット順位	アウトプット順位
日本	12位	11位	13位
オーストラリア	20位	13位	24位

③日豪の協力の枠組とポテンシャル

- **2026年は日豪友好協力基本条約署名50周年**



- 日米豪印、日米豪、日豪韓等、多層的な同志国連携を展開
- 2022年の現政権発足以来、3度の首相訪日、日豪2＋2を3回実施。
- 2025年8月、豪海軍次期汎用フリゲートに「もがみ」型選定（三菱重工、11隻供給で総額約10億豪ドル）
- 2026年5月、高市総理が政権発足後初めて豪州を公式訪問。経済安保、エネルギー安保、重要鉱物、サイバー、防衛協力等に関する5本の共同声明を発表。

③日豪の協力の枠組とポテンシャル

- 重点科学技術分野も類似

日本 （国家戦略技術領域　6分野）	オーストラリア （Critical Technologies in the National Interest）・
・AI・先端ロボット	・Artificial intelligence (AI) technologies ・Autonomous systems, robotics, positioning, timing and sensing
・量子	・Quantum technologies
・半導体・通信	・Advanced information and communication technologies
・バイオ・ヘルスケア	・Biotechnologies
・フュージョンエネルギー	・Clean energy generation and storage technologies
宇宙	・Advanced manufacturing and materials technologies

③日豪の協力の枠組とポテンシャル

- 日豪科学技術協力の枠組
  - ASPIRE：日本（JST・AMED）主導の国際共同研究プログラムで、オーストラリアも対象。2024年の日豪共同公募ではAMEDと豪州NHMRCが連携して医療分野3件を最大5年で採択、単独公募でも連携が継続中。
  - **Horizon Europe**：日本は2026/7/30にPillar II準加盟。オーストラリアは2027/1月から経過措置で公募参加可能（正式な準加盟は2027年目標）
  - 国立大学協会-Universities Australiaの定例セミナー
  - 学術振興会とAustralian Academy of Scienceの連携、JSPS豪州同窓会
  - 日本人研究者PIマップの充実

③日豪の協力の枠組とポテンシャル

- 日豪科学技術協力の枠組



  - 豪州産業科学貿易省による国際科学技術ファンド（2024年～）
  - Round1・2合わせて日本との共同研究は11件（全18件中）

対象分野

- Advanced manufacturing
- Artificial intelligence / AI
- Quantum computing
- Hydrogen production
- RNA vaccines, messenger RNA (mRNA) vaccines and therapies

対象国

- 日本（Japan）
- 韓国（Republic of Korea）
- ニュージーランド（New Zealand）
- インドネシア（Indonesia）
- マレーシア（Malaysia）
- シンガポール（Singapore）
- タイ（Thailand）
- ベトナム（Vietnam）
- ブラジル（Brazil）

③日豪の協力の枠組とポテンシャル

- 時差の少なさ：キャンベラ・シドニー・メルボルン1-2時間、ブリスベン1時間、アデレード0.5-1.5時間、ダーウィン0.5時間進み、パースは1時間遅れ

- 物価と住みやすさ

Price Level Index
（GDP, World Bank 2025, 米国=100）

国	PLI
米国	100.0
豪州	90.5
英国	89.2
カナダ	83.4
ドイツ	80.2
フランス	76.6
イタリア	69.0
日本	64.9

EIU Global Liveability Index 2026
（上位および主要都市）

順位	都市	国	スコア
1	Copenhagen	デンマーク	98
2	Vienna	オーストリア	97
3	Melbourne	豪州	97
4	Sydney	豪州	97
5	Zurich	スイス	96
6	Geneva	スイス	96
7	Osaka	日本	96
8	Adelaide	豪州	96
9	Vancouver	カナダ	96
10	Tokyo	日本	96
66	New York	米国	87

③日豪の協力の枠組とポテンシャル

- オーストラリアの独立系シンクタンク「ローウィ国際政策研究所」の実施した2026年 Lowy Institute Poll の最新結果

「（次の8か国について、）責任ある行動をとることを信頼するか」（“somewhat”または“a great deal”と回答した割合）

1. 日本（89%）
2. ドイツ（83%）
3. 英国（81%）
4. インドネシア（57%）
5. インド（50%）
6. 米国（31%）— 過去最低を更新
7. 中国（28%）
8. ロシア（11%）

日本が6年連続で首位

③日豪の協力の枠組とポテンシャル

- 日豪の大学間交流協定は1,200件超。しかし、オーストラリアにある日本の大学のオフィスやキャンパスはわずか5校程度。
- オーストラリアで学ぶ日本人学生は約1万人、日本人の留学先として第2位の人気を誇る。しかし、そのうち約半数は語学学校。職業訓練校（VET）を除くいわゆる大学への在籍は2,000人程度。

- 日本企業からの投資が増加する中、両国による最先端科学技術分野での国際共同研究を重要性が高まる可能性。
- このトレンドを支える人材創出、若者のキャリア形成を促進するため、日豪間で「研究人材」に重点を置いた人的交流プログラムを推進することが不可欠。

小話2

- オーストラリア人の「日本好きすぎ問題」。
  - 年間100万人を超える日本への旅行者
  - 会う人が皆「この前、日本に行ったよ。」
  - 日本食人気。寿司、ラーメン
  - スキー場が少なく日本の雪質に感動

④　日豪の相互補完性

- 豪州の強み
  - 地政学的強み
  - 広大な国土
  - 研究力

を生かした日豪共同研究を進め、

豪州の課題である

- 研究成果の実用化・商用化

を実績ある日本がノウハウ・技術面を補うことで、

両国が相乗効果を生むことが出来る可能性がある。

④ 日豪の相互補完性：具体的な協力事例



- もがみ型護衛艦：
  三菱重工等 – 豪州企業

- 火星衛星探査計画（MMX）：
  JAXA – 豪州宇宙庁



- 量子コンピューティング：
  産総研 – Pawsey Supercomputing Research Centre

- 医学（ASPIRE）：
  NHMRC – AMED



- ロボティクス：
  オムロン – 西シドニー大学、キャンベラ大学

④ 日豪の相互補完性：文部科学省令和9年度新規概算要求

自由で開かれたインド太平洋における 日オセアニア連携・イノベーション推進パートナーシップ

（PACIFIC: Partnership to Advance Collaboration and Innovation with Oceania for Tackling the Free and Open Indo-Pacific's Common Challenges）

令和9年度要求・要望額　106億円
うち「強く豊かな日本」投資枠　106億円（新規）

文部科学省

現状・課題

◆ 2026年5月、高市総理大臣がベトナム・ハノイで外交政策スピーチを行い、**進化した「自由で開かれたインド太平洋」（進化版FOIP）**を発表。
インド太平洋地域全体が「共に、強く豊かになる」ことを目指し、**先端科学技術分野における共同研究や人材育成の推進**による貢献が期待されている。
※自由で開かれたインド太平洋（FOIP）：2016年8月に安倍総理大臣（当時）が提唱した外交方針。インド太平洋地域において、法の支配を始めとする共通の価値や原則に基づく、自由で開かれた秩序の実現を目指すもの。

◆ 特に**オセアニア地域**は、高い研究力や豊富な天然資源を有する**豪州及びニュージーランド（NZ）**に加え、気候変動対応（防災・レジリエンス）、海洋安全保障等の観点から戦略的重要性が急速に高まっている**太平洋島嶼国・地域**で構成されており、**FOIP構想における要衝地域**。

◆ 一方、インドやASEANと異なり、我が国の**オセアニア地域との研究協力・交流はこれまで単発的・個別分散的**なものに留まっている状況。
今後、我が国がオセアニア地域とともに**新たなイノベーション・エコシステムを構築**し、**地域の自律性・強靭性を高めるための戦略的連携**が必要。



事業内容

◆ 我が国とオセアニア地域における共通の課題に連携して対応するため、**資源・防災等の共通重点分野**に先端科学技術を組み合わせ、**二国間・多国間の国際共同研究、双方向の人材交流**を通じた**重層的な研究協力・交流を実施**する。

◆ 相互のニーズに沿った国際共同研究・人材交流の一体的な実施により、日・オセアニアがインド太平洋地域の中で**経済成長と安全保障におけるパートナーとして共に成長**。

【支援内容】

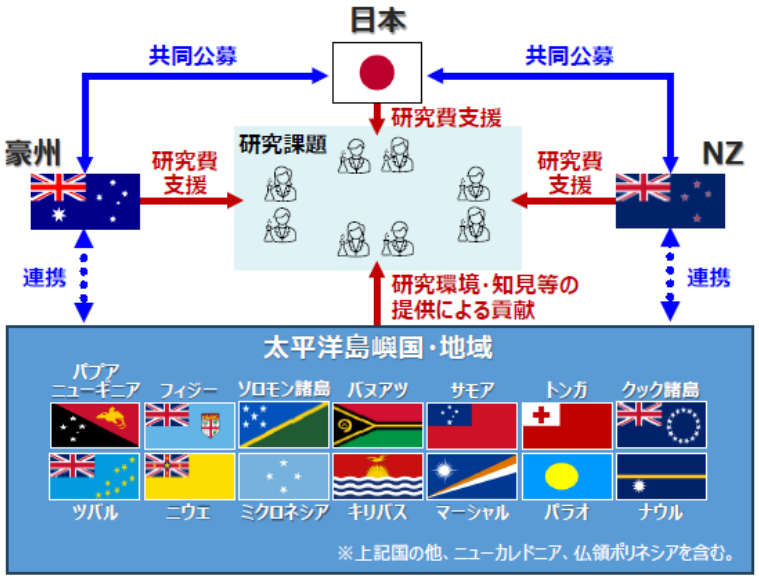
① 二国間共同研究
豪州、NZを対象として、共通重点分野における共同研究を実施
支援規模：戦略的重点型　約5億円／課題
特定課題解決型　約9千万円／課題

② 多国間共同研究
豪州、NZに太平洋島嶼国・地域を含め、広域課題解決のための共同研究を実施
支援規模：広域課題解決型　約9千万円／課題
FS型　約500万円／課題

③ 双方向人材交流
主任研究者（PI）、若手研究者、高校生を対象として、双方向の人材交流を支援

支援期間	1～5年程度
支援スキーム	文科省 →（補助）JST →（基金）大学 国立研究開発法人等 →（委託） ※双方向人材交流のうち、一部はJSTによる直執行。

【基本スキーム例：多国間共同研究（広域課題解決型）】



（担当：科学技術・学術政策局国際研究開発政策課）

⑤ 今後の日豪連携に向けた提言

- 豪州は日本の科学技術分野において、信頼性、広大な国土、時差の少なさ、研究力、スタートアップの活力等が揃った、日本にとって極めて現実的なパートナー、身近な“隣の大陸”である。

- 日豪の科学技術協力の「枠組」（政府同士の協力覚書、統括団体同士の連携、大学間協定等）は既にある。

- 今後50年を見据え、既存の枠組や助成も活用しながら、日豪の補完関係・ポテンシャルも踏まえ、実質的な共同研究、研究交流の実績を重ねていくことで、欧米並みのパートナーとしての関係構築ができるのではないか。


ご清聴ありがとうございました